

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

和泊町長

市町村名 (市町村コード)	和泊町 (46533)
地域名 (地域内農業集落名)	西原字 (西原)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和5年8月30日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

本地区は、肉用牛の盛んな地域である。規模拡大意向農家のアンケート調査では、将来において12.65haの農地が足りない状況である。

農業者:43経営体、認定農業者数:17経営体

主な作物:肉用牛、サトウキビ、パレイショ、サトイモ、花き

(2) 地域における農業の将来の在り方

肉用牛農家が多いため飼料畑は増えていくと思われる。概ね現在取り組んでいる生産物については現状維持が続くと予想されるが、パレイショやユリ球根栽培については若干減少が予想される。現時点で農地が不足し、入り作も少ないことから今後も地域内において農地利用が行われていく見込みである。農地不足の改善案として、パレイショ等の掘り取り後、次の耕作を行うまでの間、畜産飼料のソルゴ等を植え付け飼料を確保するとともに赤土流出の防止などに取り組んでいきたい。また、地域コミュニティの活性化を図るため、地域内から農地を利用する者を確保し、担い手への農地の集約化に配慮しつつ、農業を担う者への農地の分配を進めることができるよう必要な条件整備等を実施し、地域と担い手が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	110.6 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	110.6 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地は保全・管理を行う区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積, 集約化の方針
農地中間管理機構を活用して, 認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに, 担い手への農地集積を進める。併せて, 農地中間管理機構の活用, 畑かん施設の更新事業整備, 集落内での話し合いの充実を図る。また, 農地利用は, 中心経営体である認定農業者が担うほか, 地域の担い手への農地集積を積極的に推進し, 新規就農者の確保を促進することにより対応していく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け, 担い手の経営意向を斟酌し, 段階的に集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
担い手のニーズを踏まえ, 農地中間管理機構関連農地整備事業等を活用し, 農用地の大区画化・汎用化等のための基盤整備を実施する。併せて, 農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため集落において, 農地の再基盤整備, 土層改良, 畑の灌水事業等の導入を積極的に行う。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
町や県, JA等と連携し, 栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地をあっせんし, 相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
農作業の効率化を図るため農業支援サービス(ドローン散布やサトウキビの作業委託, 農業機械のシェアリング)を活用する。また, JA等の組織, 民間事業者, 個人間での農作業受委託を進め, 遊休農地の発生防止を図る。併せて, 畜産についてはヘルパーによる委託を現在も行っており今後も継続していく。その他については, 現在行われている個人間による委託を行っていく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて, 必要な事項を選択し, 取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input checked="" type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

- ①カラスに関しては捕獲箱の設置による駆除を行う。
- ②現在, 取組がなされていないが, 今後化学肥料を減らして作物の育成に取り組んでいく。
- ③畜産農家によるスマート畜産を実施している農家がいるので利用する農家を拡大普及していく。
- ⑦水・土・里サークル事業を活用して, 環境保全と農地管理に努める。
- ⑧畑かん施設の有効活用による反収アップを図っていく。
- ⑨裸地にソルゴ等を植え, 飼料畑の確保及び赤土流出防止を図っていく。